

先ず基本的な接種時期とその間隔を確認します。1期として4週間隔《1-4週とされていますが、3-6週間を推奨》で2回接種し、その概ね1年後《6か月以上3年以内を推奨》に3回目（1期の追加）です。その5-8年後に2期《9歳以上13歳未満》として4回目を追加します。国内都市部での生活環境では感染機会も少ないので、約10年もすると免疫は下がり始めて20年後にはほぼ下がっています。成人後に感染リスクが高い環境で生活するなら、10年毎に1回の追加接種を推奨しています。再び有効な免疫上昇が期待できます。

日本脳炎は感染ブタで増殖したウイルスを、コガタアカイエ蚊、またはヒトスジシマ蚊が媒介して人に感染させます。養豚場近郊や猪が生息するような里山周辺では夏から秋にかけて感染の危険があります。日本では少なくなりましたが、関東・中部で約7%、西日本では約10%の不顕性感染の危険がまだ指摘されています。アジア地域、特に東・東南・南アジアを中心に流行が続いていますので、その地域へ赴任または個人旅行などを計画される時には追加接種などの感染対策が必要です。多くは不顕性感染で約0.1%が発症します。脳炎を起こすと約20%は致死性、50%は後遺症、30%が治癒とされています。

日本脳炎ワクチンは生後6か月以上で定期接種です。一般的には3歳から接種することが多いとは思いますが、感染リスクが高い地域での居住やアジア諸国へ渡航する時には3歳未満でも強く推奨しています。1期の基礎免疫の効率的な打ち方としては、4週間あけて2回で免疫は上昇してきますし、より長期の持続が期待されます。そして2-3年間以内に3回目を追加すれば10年程度は有効と考えます。初めの2回接種の間隔が大切です。ワクチン不足に際しては4週間あけて2回接種することで3回目を遅らせることも可能です。2期は9歳にこだわらずに13歳未満で追加するようにした方が、その後の効果を考えればより有利と思います。アジアへの渡航が迫っているようなら1週間以上の間隔で2回接種して行かせることもやむを得ないと思います。その時は1-2年以内には3回目を追加できるように計画ください。1回接種量は6か月以上3歳未満0.25ml、3歳以上成人も0.5mlです。3歳未満で開始しても3歳以降で追加ができるようにすると、より有利と考えます。

また日本脳炎ワクチンは、国産がより有効で安全です。マウス脳由来の初期のワクチンは、1954年に開始され常に改良を加えられて日本脳炎の撲滅に寄与してきていたが、2009年6月からは細胞培養性のより安全で有効なワクチンとなっています。アジア諸国で接種されている生ワクチンは日本のワクチンとの互換性はないので、現地での追加は避けてください。3年間帰国できないということは日本人学校の先生以外ではありませんので大丈夫です。もし海外で生ワクチンを2回接種して帰国したら、1期の初めから打ち直すことを推奨しています。定期接種年齢内なら定期接種できますから遅れないように3回目まで済ませるようにします。7歳初めでの帰国なら、とりあえず2回接種して1年半後の9歳で3回目を追加します。13歳直前で4回目（2期）を追加するか、5-8年後に任意接種で追加します。

当センターのHPに「接種間隔の不規則事例への対処方法」の表を載せていますが、定期接種にならない例もありますから注意ください。つまり1期2回目から3回目（1期追加）の間隔は6か月以上あげないと定期接種になりません。ただワクチン効果を早期に期待するには続けて2回の接種が必要です。「①―②③」がそれに該当します。定期に合わせるには、「①―②―③」（―は6か月）ということになります。極端に言えば3年間で3回接種「①――②――③」でも基礎免疫と考えます。ただこれでは効果は遅くなります。目的に沿った接種をしてください。